

街道復活フォーラム

～九里半街道と北国街道（西近江路）の結節点として発展してきた今津の歴史を考える～

中世以後今津の町が発展してきた理由としては、今津が、琵琶湖に面し、現在は埋め立てられたがかつては船溜まりとして適した内湖（南沼・中沼・北沼）があり、琵琶湖水運の湊にふさわしい地形であったことがまず挙げられます。そして、その上さらに重要なことは、今津が「北国街道（海道）」と「九里半街道」の結節点に位置していたことです。とりわけ、日本海水運の湊である若狭の小浜と今津を結ぶ「九里半街道」の存在を抜きにして今津の町が発展はあり得ませんでした。そのように、今津の町が発展に大きな役割を果たしたのは、上記の二つの「街道」と「今津の湊」でした。

今回の「街道復活フォーラム」では、その中でもとりわけ小浜と今津を結んだ「九里半街道」の存在にスポットを当てて、今津の発展の歴史について考えます。今回のフォーラムの講演には、『今津町史』を執筆され、特に「街道」について深く研究されている 八杉 淳 氏をお招きします。

多くの方のご参加をお待ちしています。



今津町保坂に立つ道標。江戸時代中期である安永４年（1775年）に京都の桑村氏により建立された。

（日時） 2026年（令和8年）2月22日（日）

13時30分 ～ 15時30分

（会場） 今津東コミュニティーセンター3階ホール 入場無料

（内容）

① **地元からの報告 「九里半街道の過去と現在」 20分**

澤田 市治 氏 高島の歴史を考える会代表

② **講演 「近江の街道と道標」 60分**

八杉 淳 氏

草津市歴史文化活用調整員・前市立草津宿街道交流館館長

③ **質疑応答 20分**

進行役 山本 晃子 氏 高島市教育委員会文化財課課長

（主催） 今津地域住民自治協議会（つながろう今津）歴史文化部会

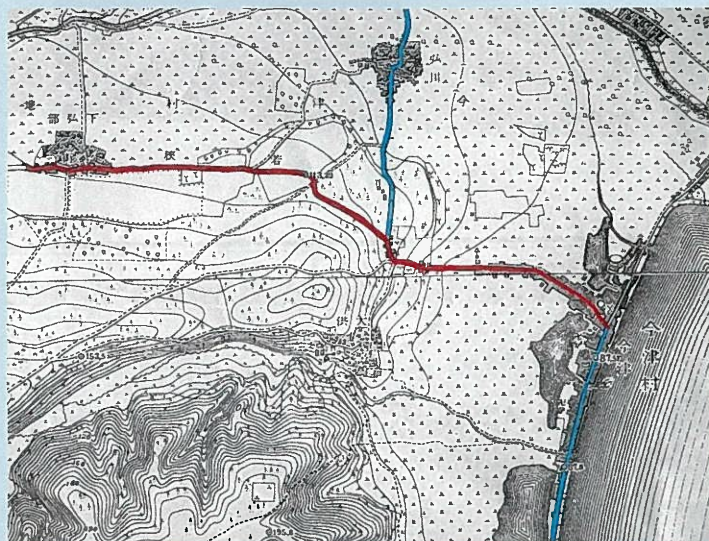
連絡先：高島市今津町中沼1-4-1 今津東コミセン（今津公民館）内 TEL：090-4927-3222

（後援） 高島市・高島市教育委員会・公益社団法人 びわ湖高島観光協会

◎ 「九里半街道」と「北国街道（西近江路）」

「九里半街道」は、今津と小浜の間が「九里半」＝「38キロ」あることからそう呼ばれるようになりました。江戸時代では、今津の人々はこの道を「わかさ道」「熊川道」などと呼んでいました。また、小浜から今津へ向かう人々は「じゅんれい道」「今津海道」「竹生島道」と呼んでいました。江戸時代は、これから向かう目的地で道の名を呼んでいたのです。一方、「北国街道（西近江路）」は、大津の札ノ辻で「東海道」と分かれて湖西に沿って北陸地方へ向かう道でした。その二つの道の結節点が今津の町にあたります。

昔から多くの人々が行き交った「街道」。今回のフォーラムでは、今津の発展に大きく関わった「九里半街道」にスポットを当ててみたいと思います。



明治26年（1893年）頃の今津周辺地図
（大日本帝国陸地測量部発行、2万分の1地図「海津村」「今津村」）

今津の住吉神社横の北浜の三叉路は、「九里半街道」の起点です。この付近には、江戸時代には住吉神社や加賀藩の代官所があり、明治から昭和時代にかけて今津の中心地でした。

この三叉路には昭和33年に弘川に新築移転するまで今津町の役場もありました。そして、その付近には銀行や商店が軒を連ねており、そこが今津の中心地であったのです。

かつて北浜の三叉路にあった旧今津町役場庁舎。



白黒写真は、すべて高島市教育委員会提供のものである。左の2枚の写真は、石井田勘二氏撮影のものである。



かつての中浜住吉神社付近。

明治26年頃は、今津の町の東西を走る道は「辻川通り」だけでした。「九里半街道」は、北浜の三叉路から「辻川通り」を西に向かい、「天神坂」を上った所の阿志都弥神社近くの三叉路で、「北国街道（西近江路）」と分岐していました。

その三叉路には、現在も江戸時代中期の明和2年（1765年）に建立された常夜燈が残っています。しかし、その三叉路にかつて立っていた「道標」は、現在は残念ながら行方不明となり失われてしまいました。

下の写真は、「道標」が残っていた時のものです。「道標」には、「左 わかさ道」「右 北国道」と彫られていました。



「九里半街道」と「北国街道」の分岐点にかつてあった「道標」と今もある「常夜燈」。



天正11年（1583年）6月1日に豊臣秀吉が今津に対して出した文書である。若狭からの荷物はすべて今津に着けるように命令した文書であり、違反したものは成敗すると書かれている。

福井県立若狭歴史博物館所蔵
「デジタルアーカイブ福井」より